



— 第622号 —

新潟市中央区浜浦町1の1

浜浦小学校

電話 (025) 266-3181

http://www.hamaura-city-niigata.ed.jp/

新しい出会いの中で

校長 齋藤 純 一

その前日に、新潟県内の感染者数が過去最高になったと報じられていました。ここに来て、園児と小学生の感染が拡大し、四月に入ってから職員会議でも感染対策の話し合いに多くの時間を割いていました。豊かな教育活動の推進と感染対策の間で、私たちは苦悩しています。さらにもどのような対策をすべきなのか、何度も私たちは論議してきました。

四月七日。私はいつもの時間に、児童玄関に向かいました。玄関越しに外を見て驚きました。いつもの二倍近い子どもたちがいたので。確かに学校に来るのが早すぎます。しかし、春休みを終えて、友だちと早く会いたい、担任の先生は誰なんだろうという、子どもたちのワクワクした気持ちが伝わってきたのです。

玄関はいつも以上に流れが悪く、なかなか中に入れません。自分の新しい靴棚の場所を探していたからです。進級して、場所が変わりました。クラス替えして名簿の順番が変わりました。「あった。ほくの名前」という声も聞こえてきました。私は、内履きに替え、新しい教室に駆けていく姿を見送っていました。

その日は、当校に赴任された三人の先生方をお迎えする着任式から始まりました。六年生代表・・・さんの歓迎の言葉は、とても力強かったです。「ぼくたちは浜浦魂をもっています。そのぼくたちが力を合わせて、様々な行事を行います

す」と話してくれました。その後、始業式で、学年代表の決意表明がありました。六年生の・・・さんの「憧れの6年生になりたい」という発表は、最上級生らしい、希望に満ちていました。始業式で、全職員のマスクなしの写真を見つけて、それを提示しながらの担任発表を行いました。感染予防の観点から、始業式は、視聴覚室から配信されています。しかし、担任を一人ずつ紹介する度に、視聴覚室まで子どもたちの歓声が聞こえてきたのです。

その後、各教室を回りましたが、子どもたちは真剣に担任の先生の話聞いていました。自己紹介をする先生、こんな学級にしたいという思いを語る先生、子どもたちの自己紹介を、その子を見つめながら聴く先生の姿が見られました。

感染症の終息が未だ遠い中であって、この日とても大切な出会いがありました。翌日は、入学式でした。さらに新たな素晴らしい出会いがありました。引き続き感染症対策を講じながら、このかけがえのない出会いを大切にしていきたいです。

当校の前庭の桜は、今年は開花が遅く、入学式を待つて咲きました。そして、始業式の朝、ツバメが児童玄関の軒先に、また帰ってきてくれました。

新しい一年が始まりました。今年一年、よろしく願いいたします。